

教科名	国語科	校 種	高等学校
-----	-----	-----	------

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態
1 年	現代の国語	必	2	
	言語文化	必	2	
2 年	現代文B	必	2	
	古典B	必	3	
3 年	現代文B	必	3	
	選択現代文	選	2	
	古典演習	選	2	

科目名（教科名）		現代の国語（国語）					
学年		1	単位数	2	必修・選択・展開	必修	
目的	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
	2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
		3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
学 期		授 業 の 項 目			内 容		
1 学 期		小説 評論			・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、自分の意見や考えを論述する ・主張と論拠など、情報と情報との関係を理解する ・自分の考えが的確に伝わるように根拠の示し方を工夫する ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する ・具体と抽象の関係を整理して論理構成を把握する		
2 学 期		小説 評論			・自分の考えが的確に伝わるように根拠の示し方を工夫する ・文章を分析的に読み、対比構造を用いた展開について理解する ・文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解する		
3 学 期		小説 評論			・作中に示された主題について考えを深め、自分の意見や考えを論述する ・文章を分析的に読み、仮説を積み上げて結論を導く論理の展開について理解する		
通 年		文学史 漢字・語彙 表現			・近代文学史の展開を学ぶ ・小テストを実施 ・論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる		
評 価 の 観 点	【知識・技能】 (40%)	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている			・定期試験の知識問題		
	【思考・判断力・表現】 (30%)	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている			・定期試験の思考判断を問う記述問題 ・話し合い・発表・感想文、作文		
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしていくとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている			・振り返り ・小テスト・ノート作り ・授業態度・課題提出		
評 価 の 方 法 と 割 合		● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70 % 平常点 30 %					
教科書・ 副教材等		● 教科書：「現代の国語」（第一学習社） ● 問題集：「現代の国語 学習課題集」（第一学習社） 「日本文学史ノート」（桐原書店） 「漢検 10日でできる練習問題集 3級」（日本漢字能力協会） ● 副教材：「常用国語便覧」（浜島書店）					

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		言語文化（国語）			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	1. 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
	2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学期	授業の項目		内容		
1学期	文法		・歴史的仮名遣いを正しく理解し、古文の特徴をつかむ		
	説話・随筆		・品詞の種類、活用を理解し、古語辞典が引けるようになる		
	格言と故事		・用言の活用について正確に理解する		
	古典芸能鑑賞		・助動詞の意味と用法を正確に理解する		
2学期	物語		・古人の生き方に触れ、古文を読む楽しさを知る		
	日記		・中世のものの考え方や見方、感じ方を理解する		
	史伝		・音読を通して漢文の表現に慣れる		
			・故事を通し、古代中国の人々の知恵を知る		
3学期			・再読文字・置き字の用法を理解する		
			・古典についての基本的知識を学び、古典芸能のすばらしさを体感する		
通年	物語		・文学史的意義について理解する		
	古典と近現代の詩歌		・平安時代の人々のものの見方、感じ方を味わう		
	漢詩		・「歌物語」の特徴を理解する		
			・登場人物の心情と行動を読み取る		
評価の観点			・助詞の働きを理解する		
			・日記文学の文学史的意義について理解する		
			・当時の旅の苦労や筆者の心情を読み取る		
			・漢文の文章を訓点に従って正確に読み、その内容を理解する		
評価の方法と割合			・史伝という文章の種類を踏まえ、内容や展開を読み取る		
教科書・副教材等	【知識・技能】 (40%)		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、日本の言語文化に対する理解を深めている		・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・表現】 (30%)		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている		・定期試験の思考判断を問う記述問題 ・話し合い・発表・レポート
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている		・振り返り ・小テスト・ノート作り ・授業態度・課題提出
● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。					
● 割合：定期試験 70 % 平常点 30 %					
● 教科書：「言語文化」（第一学習社）					
● 問題集：「言語文化 学習課題集」（第一学習社）					
「古典文法クリアノート」（尚文出版） 「日本文学史ノート」（桐原書店）					
● 副教材：「常用国語便覧」（浜島書店）					
「古文単語330」（い い ず な 書店） 「漢文ポイントマスター」（河合塾）					

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		現代文B（国語科）			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 近代以降の様々な文章を読解する能力を高める。
2. 様々な文章を読むことで、思考力や物事を熟考する姿勢を養い、語彙を豊富にする。
3. 進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	評論		・ 論理的な文章から、論理の働きによって自らの概念の成り立ちを分析する ・ 論理的な文章を通して、現代社会や時代のありようを読み解き、社会についての自分の考えを発展させる ・ 文学的な文章にあらわれた、人物の喜びや悲しみなどの心情をリアルにとらえ、優れた描写を味わう ・ 韻文を読んで、その表現上の特徴に留意しながら情景や心情をとらえ、自然に親しむ態度や、人生について考える態度を養う
	小説		
	詩歌		
2 学 期	評論		・ 論理的な文章をその論理の展開を把握するだけでなく、そこに込められた筆者の物の見方・考え方を学ぶ ・ 優れた小説を通して、人間や社会について考えるとともに、読書に親しむ態度を養う ・ 演習問題を解き、読解力を養う
	小説		
	演習問題		
3 学 期	評論		・ これまで培ってきた総合的な国語の力を応用し、作品の読みから深い知恵を導き出す方法を学ぶ ・ 本格的な文学作品を読むことを通して、作品の成り立ちを含めた立体的な読みを構築する方法を学ぶ ・ 資料を基に客観的に意見を伝える方法を身につけ、伝え合う力や態度を養う ・ 演習問題を解き、読解力を養う ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある
	小説		
	実用文の表現		
	演習問題		
通 年	文学史 漢字・語彙		・ 近代文学史の展開を学ぶ ・ 小テストを実施
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	
	【話す・聞く能力】	目的や場に応じて効果的に話したり、聞いたり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	
	【書く能力】	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
	【読む能力】	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	
	【知識・理解・技能】	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	
評 価 の 方 法 と 割 合	● 評価方法：定期試験と平常点（提出物、小テスト等）により、各学期の成績を算出する。 ● 割合：定期試験 70％ 平常点 30％		
教科書・ 副教材等	● 教科書：「精選現代文B」（東京書籍） ● 副教材：「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍）「常用国語便覧」（浜島書店） 「大学入試 銀の漢字 必修編」（水王舎）「日本文学史ノート」（京都書房）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		古典B（国語科）			
学年	2	単位数	3	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

目的	1. 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 2. 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにする。 3. 表現上の特色を理解し、優れた表現に親しみながら、日本文化の特質を理解する。
----	--

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	説話・物語		・ 歴史的・文化的背景の違いをふまえ、当時の人々のものの見方や感じ方、考え方を味わう。 ・ 基本的な知識を確認しながら、漢詩の法則やその歴史について学び、自然・社会・人生・愛情などの詩的情趣を感じ取る。 ・ 古典についての基本的知識を学び、古典芸能のすばらしさを体感する。
	漢詩		
	古典芸能鑑賞		
2 学期	日記		・ 仮名散文の表現性とともに、みずからの心を自由に表現した日記文学を読み味わう。 ・ 古典文学の最も伝統的な形態である和歌を通じ、歌風の特徴や変遷を理解し、作者の心情を読み取る。 ・ 格調高い文章の良さを味わい、中国の歴史上の物語を読み解くことで、人間の心理を理解する。
	和歌と歌謡		
	漢文		
3 学期	随筆		・ 作品の内容、解釈をふまえ、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める。
通 年	・ 古代から近世までの文学史の展開を学ぶ ・ 古文単語の語彙力を高める ・ 漢文の句形に関する知識を身につける		
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	
	【読む能力】	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	
	【知識・理解】	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	
評 価 の 方 法 と 割 合	● 評価方法：定期試験と平常点（提出物、小テスト等）により、各学期の成績を算出する。 ● 割合：定期試験70％ 平常点30％		
教科書・ 副教材等	● 教科書：「精選古典B 古文編」（東京書籍）「精選古典B 漢文編」（東京書籍） ● 問題集：「体系古典文法準拠ノート」（数研出版）「完成日本文学史ノート」（京都書房） ● 副教材：「精選古典B 古文編 学習課題ノート」（東京書籍） 「精選古典B 漢文編 学習課題ノート」（東京書籍）「常用国語便覧」（浜島書店） 「体系古典文法」（数研出版）「古文単語330」（いっぴぐな書店） 「漢文ポイントマスター」（河合出版）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		現代文B（国語科）			
学年	3	単位数	3	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 近代以降の様々な文章を読解する能力を高め、物の見方、感じ方、考え方を深め人生を豊かにする態度を育てる。
2. 言語感覚を磨き、大学入試にも対応できる語彙力・表現力を身につける。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		主 な 内 容
1 学 期	評論		・ 評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る ・ 大学入試レベルの問題を解くことで、評論の読解・内容理解・解答の作り方を学ぶ ・ 様々な文章（志望理由書・自己推薦書）の書き方を練習する
	問題演習		
	表現活動		
2 学 期	評論		・ 他者や異文化世界についての評論を読み、さまざまな見方があることを知る ・ 文語文で書かれた小説を読み、そこに描かれた内容を的確に理解して味わう ・ 問題の読解力、思考力、記述力を高める
	小説		
	問題演習		
3 学 期	問題演習		・ 過去の入試問題に当たり、読解力や知識を身につける
通 年	漢字・語彙		・ 小テストを実施
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	
	【話す・聞く能力】	目的や場に応じて効果的に話したり、聞いたり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	
	【書く能力】	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
	【読む能力】	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	
	【知識・理解・技能】	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	
評 価 の 方 法 と 割 合	● 評価方法：定期試験と平常点（提出物、小テスト等）により、各学期の成績を算出する。 ● 割合：定期試験70％ 平常点30％		
教科書・ 副教材等	● 教科書：「精選現代文B」（東京書籍） ● 副教材：「精選現代文B学習課題ノート」（東京書籍） 「大学入試 銀の漢字」（水王社）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		選択現代文（国語科）			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

■ 授 業 の 目 的

1. さまざまな文章に触れ、「読む力」「書く力」「話す力」を見直し、総合的な国語力の向上を図る。
2. 大学入試をはじめ、社会の中で生きていくために必要な語彙力を蓄え、正しく運用する能力を育てる。
3. 大学入試をはじめ、社会の中で生きていくために必要な文章読解力を育てる。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学期	問題演習		・入試問題演習によって読解力・思考力・表現力を身につける
2 学期	問題演習		・入試問題演習によって読解力・思考力・表現力を身につける
3 学期	問題演習		・入試問題演習によって読解力・思考力・表現力を身につける
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	
	【話す・聞く能力】	目的や場に応じて効果的に話したり、聞いたり話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	
	【書く能力】	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	
	【読む能力】	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	
	【知識・理解・技能】	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	
評 価 の 方 法 と 割 合	● 評価方法　：定期試験と平常点（提出物、小テスト等）により、各学期の成績を算出する。 ● 割合　　　：定期試験70％　　平常点30％		
教科書・ 副教材等	● テキスト　：「小池陽慈の現代文読解が面白いほどできる基礎ドリル」（KADOKAWA） （2学期に、共通テスト対策問題集を使用予定） ● 副教材　　：「大学入試 銀の漢字」（水王社）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。

科目名（教科名）		古典演習（国語科）			
学年	3	単位数		必修・選択・展開	選 択

■ 授 業 の 目 的

1. 大学入試に対応できる古語・文法の知識や漢文の訓読法や知識を身につける。
2. 古文・漢文特有の文体に慣れ、大学入試に対応できる「読解力」を養う。
3. 古典に親しむことによって人生を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	問題演習		・ 入試問題演習によって読解力・思考力・表現力を身につける
2 学 期	問題演習		・ 入試問題演習によって読解力・思考力・表現力を身につける
3 学 期	問題演習		・ 入試問題演習によって読解力・思考力・表現力を身につける
通 年	・ 古文単語の語彙力を高める ・ 漢文の句形に関する知識を身につける		
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	
	【話す・聞く能力】	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	
	【知識・理解】	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている。	
評 価 の 方 法 と 割 合	(演習科目のため評価なし)		
教科書・ 副教材等	● テキスト ：「田島圭祐の古文読解が面白いほどできる基礎ドリル」 （KADOKAWA） （2学期に、共通テスト対策問題集を使用予定） ● 副教材 ：「古文単語330」 （いっいずな書店） 「漢文ヤマのヤマ」 （学研）		

※生徒の実態に応じて、内容や進度等が変更されることがある。